



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

サンタクロースはいるのか？

校長 永浜 裕之

先日、NYタイムズを読んでいたら、社説に、興味深い記述を見つけました。

1897年のある日、ニューヨークの新聞社、「ニューヨーク・サン」に、バージニアという8歳の女の子から手紙が届きました。

そこには、「私は8歳です。私の友だちに『サンタクロースなんていない』と言っている子がいます。パパに聞いたら、『サン新聞に問い合わせさせてごらん。新聞社でサンタクロースがいるというのなら、そりゃもう確かにいるのだらうよ』と言いました。ですからお願いです。教えてください。サンタクロースって本当にいるのでしょうか？」と書かれていました。

いくらお父さんが困ったといっても、新聞社に振るのは無責任だと思いますが、アメリカの新聞社には、「おおらかさ」、「暖かさ」がありました。この8歳の少女の手紙に対して、大新聞が「社説」で回答したのです。

曰く、「バージニア。お答えします。サンタクロースなんていないという、お友達の間違っていています。きっとその子の心の中には、今はやりの、何でも疑ってかかる、「疑（うたが）り屋根性」というものが、しみ込んでいるのでしょう。「疑り屋」は、目に見えるものしか信じません。そうです、バージニア。サンタクロースがいるというのは決してウソではありません。この世の中に、愛する人への思いやりや真心があるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです。もしも、サンタクロースがいなかったら、この世はどんなに暗く、寂しいことでしょうか。あなたのようなかわいらしい子供のいない世界が考えられないのと同じように、サンタクロースのいない世界なんて想像ができません。サンタクロースがいなければ、人生の苦しみを和らげてくれる子供らしい信頼も、詩も、ロマンスもなくなってしまうでしょうし、私たち人間の味わう喜びは、ただ、目に見えるもの手で触れられるもの、手で感じるものだけになってしまうでしょう。サンタクロースを見た人はいません。けれどもそれは、サンタクロースがいらないという証明にはならないのです。子供の目にも、大人の目にも見えないものでも、愛情のように存在するものはあるのですから。」と、大方、このような内容でした。

この社説は、2つのことを言っていると思います。まずは、物が存在するという事は、どういうことだろうということなのです。

一つ目の「物」は、目で見たり、手に触ったりして、その存在を確かめることができる存在です。しかし、世の中に存在している物は、そのすべてが、見たり、触れたりできるものとは限りません。たとえば、夢や希望、友情や愛情などの精神的な存在は、見たり触れたりといった感覚で確かめることができないものです。

しかし、見たり触れたりといった感覚で確認できないからといって、存在していないとは言えません。むしろ感覚で確かめられない二つ目の「物」の方が、大切であるとも言えます。

サンタクロースは、見たり触れたりといった感覚ではなく、いわば、心の目で確かめられるものであるという考えが、この社説では主張されています。

こんな風にも読み取れます。「サンタクロースは、何も赤い帽子と洋服をまとった「おじいさん」というばかりではなく、子供たちに夢や希望を与えてくれる存在であり、悩んだり、苦しんだりしている人の心を和ませてくれる存在は、すべてサンタクロースである。この意味では、誰でもサンタクロースになることができる」ということを、言いたかったのではないのでしょうか。

最近のアメリカは、様々な課題を抱えているように見受けられますが、この社説が掲載されてから120年以上たった今でも、クリスマス近くになると、どこかの新聞にこの話が掲載されるということは、アメリカ社会が、まだまだ子供たちに対する確かな姿勢を持っていると感じることができます。

翻って日本の現状を考えると、われわれ大人が、そして、もうすぐ大人になる皆さんが、「小さな子供たちのサンタクロースになり得ているのか」と思ってしまう。

世の中が豊かになり、お金さえ出せば何でも手に入るような風潮のある今の時代に、最も必要なものは、サンタクロースなのかもしれません。

社説の最後は、「目に見えぬ、輝かしい世界への幕を開けられるのは、信じる心、想像力、詩(ポエム)、愛、夢見る気持ちだけです。」と結ばれています。

今年もあと1週間で終わり、新しい年が始まります。年の変わり目に、普段忘れがちな事柄について、しみじみと考えてみたいと思います。そして、来年が良い年であることを願って、今年の締めくくりといたします。

次世代リーダー育成道場への参加が決まって

情報科2部3組 露木 万水

私は将来、海外で仕事をするという目標があります。その目標を実現させるためには、日本の価値観にとらわれず、国際的な目で物事を見ることが大切だと感じました。東京都教職員研修センターが主催する次世代リーダー育成道場で学ぶ機会は、夢の実現に最適だと感じて応募しました。

次世代リーダー育成道場では、自分の意見をはっきり言えるような力をつけ、多国籍国家で、差別も少なく、色々な考え方を持った方々がいるオーストラリアに留学します。

留学するという事は、仲の良い友達とも別れなければいけませんし、多くのことを自分一人でこなさなければなりません。最初は不安で仕方がありませんでしたが、他の研修生とも仲良くなれましたし、交流の幅が広がりました。しかも学校の先生や家族など頼れる人はたくさんいます。今もALTの先生と英語の練習をしています。先生方や、家族、仲良くしてくれている研修生には本当に感謝しています。

英語は勉強中で、留学もこれからで、まだまだ不安ですが、頑張ります。

挑戦 ～夢に向かって～

普通科1部3組 小山 和花

母がモデルをしていたことがあり、私自身もその仕事に就くことが夢でした。中学1年生の頃から福岡の事務所に所属し、活動をしていました。

中学3年生になった頃、あるきっかけで東京の事務所の方からスカウトを受けました。家族と相談し、学業と仕事の両立を目指し、高校進学を機に上京して山吹に入学しました。

「勉強も仕事も頑張ろう」。そう意気込んで上京してきたのですが、いざ東京暮らしを開始すると、洗濯、自炊、掃除などの家事に追われる日々。何でも自分で責任をもってやらないといけないなと感じました。そして、「新しい環境で新しいことにチャレンジすること」は楽しいけど、簡単ではないとも感じた山吹1年目でした。

今私は、様々な機会を与えてくれた事務所のおかげで、「音楽」という新しいことに挑戦しています。ユニットを組んでおり、2021年4月のデビューに向けて、ボイストレーニングやダンスのレッスンに励んでいます。中学生の頃とは違う道ではあるけれど、やりたいことに挑戦できることに感謝しています。

これからも一生懸命頑張ります！応援していただけたら嬉しいです！

軟式野球部 秋季大会3位



軟式野球部は定時制8名、通信制2名、マネージャー2名で活動しています。(新入部員募集中)今年度は新型コロナウイルスによる感染症の影響で、

多くの大会やイベントが中止となってしまいましたが、様々な関係者のご尽力により、軟式野球部門は秋季大会が開催されました。「1試合しかできないかもしれない」。それでもこのメンバーで戦いたいという選手たちからの声があり、選手、顧問が一丸となって練習に取り組みました。

4カ月ぶりの練習は、野球ができるという喜びの反面、実力の低下が浮き彫りとなりました。大会まで2カ月、基礎から見直し、各自自主練を重ねながら、週2日の全体練習を積み重ねました。想いの強いこの2カ月の選手の成長は目を見張るものがあり、日に日に実力をつけ、いざ秋季大会へ。

初戦から白熱した試合を繰り広げ続け、決勝トーナメントに進出。惜しくも準決勝は敗退でしたが、3位決定戦に勝利し、「東京都3位」となりました。優勝を目指していたこともあり、結果だけを見れば残念ですが、「全力」という合言葉も生まれ、選手全員が必死に勝ち取った3位。2020年の秋季大会を本気で、全力で戦ってきた選手たちを、顧問一同心から誇りに思います。そして最後まで秋季大会を戦い抜いた他校の方々、大会関係者に対し敬意を表します。軟式野球部顧問 体育科 山本

定時制課程 学校行事予定

12月25日(金)後期終業集会

26日(土)冬季休業日開始

1月3日(日)冬季休業日終了

4日(月)授業開始(初日から平常授業です)

通信制課程ボランティア - 地域清掃 (11月21日・土)

総合的な学習の時間を利用して、学校周辺の清掃活動を行いました。総合的な学習の今回のテーマはSDGsの目標の一つである「環境」について。地球温暖化や海洋プラスチックなどの大きな問題をグローバルに考える視点を持つだけでなく、日常生活で取り組める小さなことを積み重ねる重要性を学びました。SDGsの講義後はみんなで地域清掃。大小さまざまなゴミを片付け、身近な環境から綺麗にしていく大切さを学びました。



通信制課程 学校行事予定

12月12日(土)スクーリング2-10

1月3日(日)冬季休業日終了

9日(土)スクーリング2-11 + 科目登録資料配布

16日(土)スクーリング2-12 + 科目登録資料配布